

平成 24 年度 講演会の報告

1. はじめに

北方海域技術研究会では、2012年(平成24年)7月19日に平成24年度の講演会を札幌市の(社)北海道中小企業会館F会議室にて開催しました。今回は39名の参加を得、当会の橋本幹事の司会により進められました。

今回は講演1「これからの社会と技術の活用」と講演2「浮上式防波堤等による津波の防災・減災対策について—フラップ式ゲートによる海上・陸上の浸水対策施設—」の2件について講演をいただきました。

2. 講演内容

1) 講演1「これからの社会と技術の活用」

函館工業高等専門学校名誉教授、葦澤憲吉氏からご講演を頂きました。氏はまず、自身がどんなことを考えてきたのかを土木社会学、環境教育、土木デザイン、市民活動などのこれまでの研究と活動を示しながら自己紹介としてお話し頂きました。その上で、自然回復を技術として考える自信過剰を諷め、仕事の向こう側に、仕事の意味や目標・目的が透けて見えるようでありたい。効率優先の巨大技術や巨大システムに全面的に依存することは避け、非常時には、分割でき、小さくても自立するシステムを検討しておきたい。手作業レベルで機能するシス



講演中の葦澤憲吉氏



講演中の仲安京一氏

テムも残しておきたいなど私ども技術者にとって重要な造詣の深いお話を頂きました。

2) 講演2「浮上式防波堤等による津波の防災・減災対策について」

日立造船(株)フラップゲートプロジェクトチームリーダー仲保京一氏にご講演を頂きました。ご講演は東日本大震災で得た教訓として、津波防御施設の性能を①確実に機能する②日常生活の支障とならない③維持管理の負担が過剰とならないことのバランスが重要であることの示唆を頂いた。さらに、具体的技術として、片方が固定され垂れ下がった平たいものと定義されるフラップを水位の上下に伴い起伏するゲートとして応用したフラップゲートの開発についてお話し頂いた。

両講演ともに参加者から熱心な質疑を頂いた。最後にお忙しい中、快くご講演をお引き受け頂いた両講師及び関係各位に心からお礼申し上げます。



熱心に聞き入る参加会員